

第12回 林道 てくてく 《足柄山麓の見所を歩く》

大雄山駅～内山林道（県立21世紀の森）～洒水の滝～河村城址公園～山北駅

第12回「林道てくてく」は、足柄平野北西部の足柄山麓にある林道や見所を歩く。

コースは、大雄山線大雄山駅～内山林道（県立21世紀の森）～洒水の滝～河村城址公園～御殿場線山北駅とした。

距離は約12km。上り坂の多いコースなので、やや健脚向き。

内山林道のある「県立21世紀の森」へは南足柄市内山から入る。

大雄山駅から内山行きの適当なバス便がなければ、地藏堂行きに乗り「荏野」のバス停から足柄隧道経由で内山まで歩く。

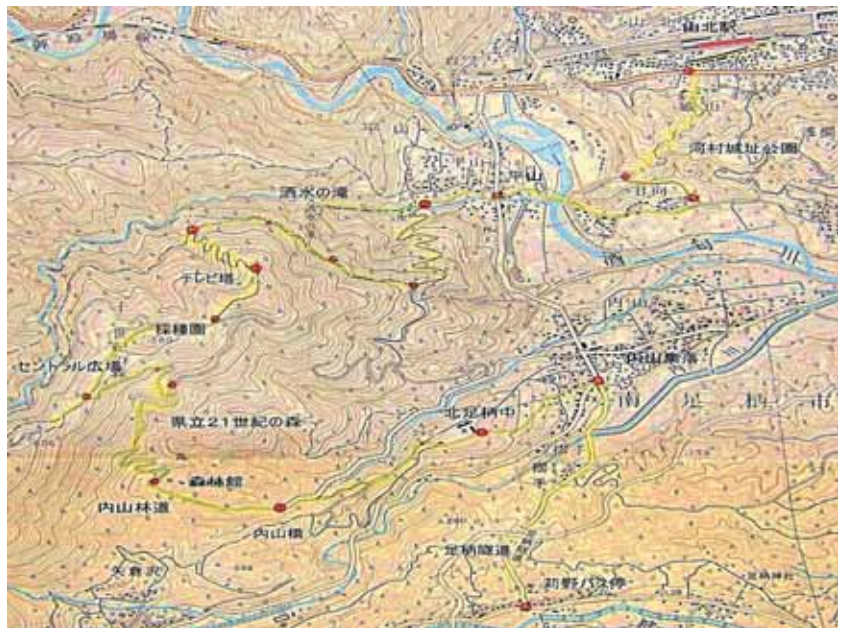
今回はこのコース。

内山までは、酒匂川に向かって緩く傾斜する斜面にミカン畑や棚田などが広がり、山里の雰囲気が感じられる道である。内山地区は内川と酒匂川に挟まれた集落で小・中学校もある。



内山からは北足柄中学校を目指してミカン畑の中の農道を行く。

中学校を過ぎると、ほどなく21世紀の森の区域に入り、内山林道の始まりとなる。目の前に枝が幹に纏わりつくようなあまり見たことがない高い木の一団が見える。「しだれヒノキ」と名付けられた木であると解説板にある。県内で枝の垂れさがる特徴を持った木から採種して育成しているとのこと。成長が早く、しかも着雪害が少な



く、枝打ち作業が軽減されるなど林業活動にとって好都合な木で品種登録もされている。



内山橋からは乙沢に造られた治山施設等を見ながらしばらく歩く。内山林道は、21世紀の森を整備、利・活用する基幹道路として造られた林道で、21世紀の森を貫く延長3961m、基本幅員4mの道である。

県立21世紀の森

森林館などがある広場に着了らしばし休憩とし、森林館で森林・林業などに関する展示などを見て森への理解を深めよう。

「県立21世紀の森」は、107haの区域に「人と森林のふれあいの場」を設置目的として、平

成2年にオープンした。

地形により、上部と下部の団地に分けられ、下部団地には森林館を中心に木工機械を備えて県民も利用できる木材工芸センターなどのほか、森林内の散策路や子供の森、駐車場などがある。

上部団地には、セントラル広場、市町村の森、展望台などと共に県内のスギやヒノキの精英樹から優良苗木をつくる採種園がある。



森林館から見える山の尾根筋に広がる上部団地をめざす。

ヘアピンカーブをいくつかすぎ、セントラル広場への近道を選ぶ。

周りはスギやヒノキの人工林で、区域内森林の60数%を占める。

途中、下方に広がる市街地やアサヒビールの工場などが見える。



浜居場城の一部であったというセントラル広場は静寂に包まれ、風のそよぎに秋の深まりを感じながら昼食とする。

いつまでもゆっくりしたいところだが先が長い。尾根筋の林道を北に向かい洒水の滝を目指す。

途中、県内市町村の木を集めた樹木園や展望台から滝上流の山並みを眺めたり、6 h a余におよぶ広大な採種園に感心しながら、標識に従っててくてく歩む。



テレビ塔付近からは急斜面を下る山道となる。足元に気を配りながら10分ほど下ると等高線に沿った山道に出る。そこから右手にしばらく歩くと竹林の中を通る道となる。竹林は荒れ放題。

道に倒れている枯竹を避けながら進むと舗装された車道となる。

下り始めてから約40分、およそ2 kmの山道。

昨今、竹は利用されなくなった。

そのため、放置された竹林が勢力を広げて樹林の中まで侵入しているのを見かけることが多い。

ここからはヘアピンカーブの連続する下り道。いくら歩いても同

じ所を歩いているようで、いささか気が滅入るが、東名高速や目指す洒水の滝が緑の山肌に一筋の白い糸のように見える所もあるなど、それなりに楽しめる。

下りきった所が洒水の滝への道。

旅館などのある谷間の道を沢沿いに400 mほど行くと洒水の滝。

華巖の滝とはいかないが、なかなかの迫力である。

「日本の滝百選」に選ばれた名瀑というのもうなずける。

洒水の滝

新編相模風土記稿には「蛇水ノ瀧」と記され「・・・その形状銀河の中天より落つる如くして当国随一の瀑布というべし」とある。

現在の名前に変わったのはいつの頃かわからないが、「洒水」とは仏教用語で儀式を行う前に身体や道場、仏具にかけて煩惱や穢れを浄める水のことを言うのだそうである。シャは「酒」ではない。間違っても飲まないようご注意あれ。



滝は、礫交じりの足柄層群の隆起に伴う裂け目を侵食しながら現在の位置まで後退した。3段あり、見えている1段目の滝が一番高く、その高さは69.3 mある。

洒水のしぶきを浴びて身を浄めた後は河村城址に向かうべく道を引き返す。

洒水の滝から河村城址までの道は、日本ウォーキング協会認定の「美しい日本の歩きたくなる道500選」に選ばれたコースである。

県内で認定された11コースの1つで、ほかには「箱根旧街道」や「江の島と湘南の海浜道」などがある。

平山の集落を横切る広い道路に出る。疲れた人は、ここから約40分の山北駅に直接向かうと良い。こちらはもうひと踏ん張り。

酒匂川を渡り、名前どおりの日向の集落を通り標識に従って左の農道に入る。これがなかなか急な道であるが歩くごとに視界が開け、酒匂川と広がる田園が見下ろせる。

河村城址歴史公園

農道の終点からは、階段の山道となり、馬出廓を経て緑の芝生がきれいな本城廓の広場に着く。

広場からの展望が良い。下を流れる酒匂川、国府津に続く町並と相模湾もかすかに見える。

河村城は、後北条時代に先ほどの浜居場城と同じく武田軍の侵入に備えた城であった。廓や掘割が比較的に残されており、歴史公園として整備がすすめられ、平成6年から「河村城址歴史公園」として公開されている。



城跡からは、階段道を下り、盛翁寺を横目に見て国道を潜ると山北駅は近い。

時間があれば、駅のそばにある「健康福祉センター桜の湯」の人工温泉で汗を流し、疲れをとって帰るのもおもしろい。

(2011.10 瀧澤)